

2. 英語ホームページの充実

学会国際化の流れの中、学会英語ホームページ（以下、HP）は本学会と海外医学教育者との間の情報取得や発信を取り持つ重要な役割を果たす。学会広報・情報基盤委員会、学会誌編集委員会等と連携し、平成30年度内に英語HPの内容を一新する予定である。

3. 国際交流の促進（韓国、ベトナム、モンゴルなど）

日韓医学教育学会交流事業として日・韓講師による招聘講演を継続する一方、卒前および卒後・専門教育委員会委員とも連携し、ベトナムやモンゴルを中心に、開発途上国における「医療者の指

導者」を養成するODA（JICA）のプロジェクトを支援している。今後は先進国の医学教育者との交流も深めていきたい。

4. 国際的な医学教育研究活動への支援

今まで、APME-Net（Asian Pacific Medical Education Network）など、医学教育研究分野における海外研究者との交流を支援したが、今後も若手の活動を支援する方針である。

副委員長：大久保由美子、委員：青松棟吉、秋山稔、石川和信、及川沙耶佳、菊川誠、高村昭輝、矢野（五味）晴美、山内かづ代、Raoul Breugelmans

*1 Internationalization Committee

*2 Akira Muraoka

4. 医学教育専門家・業績FD委員会^{*1}

藤崎和彦^{*2}（委員長・岐阜大学医学教育開発研究センター）

第19期の医学教育専門家・業績FD委員会は第18期の医学教育専門家制度委員会と業績評価委員会、FD委員会の三つの委員会が合体してできた委員会である。①学会認定医学教育専門家制度の運用と制度整備、②医学教育者のためのワークショップ（WS）（通称：富士研WS）や、基礎・一般教育系教員向けの医学教育WSの立案・運営、そして、③第18期の業績評価委員会が作成した医学教育業績評価シートのブラッシュアップなど教育業績評価に関わることを検討している。

2014年にスタートした学会認定医学教育専門家制度関連では、2014年から「教授法と学習法（Teaching & Learning）」「学習者評価（Assessment）」「カリキュラム開発（Curriculum Development）」の各WSを年1回行っている。一方、暫定認定資格については2015年から審査を開

始し2017年の申請で暫定期限が終了した。暫定認定資格は、日本医学教育学会会員歴10年以上、または海外の大学院での医学（医療者）教育に関する修士号を持っている本学会会員が取得できる。正式資格の審査についても2015年からトライアルを開始し、ポートフォリオ評価と面接試験との2段階構成で実施し、2017年からは正式コース修了者を対象としたものになっている。2018年5月には認定された医学教育専門家は135名となる予定である。認定資格更新制度についても議論を進め、2016年に更新要件を決定している。

医学教育者のためのWSについては、会場を湘南国際村に移して、本委員会になり43回、44回と開催してきた。また一般教養・基礎社会医学系教員のためのカリキュラム・プランニングWSについても第2回を2016年に開催し、2018年5月に第